

Cisco CallManager バージョン 4.0

Q. Cisco® CallManager とは何ですか？

A. Cisco CallManager とは、ソフトウェアベースの呼処理コンポーネントで、Cisco AVVID (Architecture for Voice, Video and Integrated Data) に対応したエンタープライズ IP テレフォニーソリューション製品です。Cisco CallManager ソフトウェアは、エンタープライズ テレフォニー機能を、IP Phone、メディア処理デバイス、Voice over IP (VoIP) ゲートウェイ、マルチメディア アプリケーションなどのパケット テレフォニー ネットワーク デバイスにまで拡張します。Cisco CallManager のオープンなテレフォニー アプリケーション プログラミング インターフェイスを通じて IP テレフォニー ソリューションと相互動作することにより、ユニファイド メッセージング、マルチメディア会議、統合コンタクトセンター、双方向マルチメディア応答システムなど、データ、音声、ビデオのサービスがさらに可能になります。

Q. Cisco CallManager 4.0 の新機能はどのようなものですか？

A. 新機能は以下のとおりです。

- ユーザ機能の強化
 - 短縮ダイヤル (3 プッシュで可能なクイック短縮ダイヤル)
 - Attendant Console の強化 (コールのキューイング、共有ラインのサポート)
 - バージおよびコンファレンス バージ (機能を向上)
 - コールの結合 (ライン上の複数の発信者をコンファレンスブリッジに結合)
 - 直接転送 (ライン上の 2 人の発信者へまとめて転送)
 - 即時転送 (着信、アクティブ、または保留の各コールをボイス メールに転送)
 - IP Manager Assistant (IPMA) の強化 (共有ラインのサポート)
 - 悪意のあるコールの識別 (悪意のあるコールをマーキングし、通知)
 - 1 ラインあたりの複数コール (1 ラインあたり複数のコールを可能にして、呼処理モデルを向上)
 - プライバシ (コール情報と共有ラインの表示の抑制、およびバージの防止)
 - サービス URL (ワンプッシュで可能なサービスへのクイック アクセス)
 - ビデオ (Cisco CallManager の Skinny Client Control Protocol [SCCP] および H.323 でのビデオ サポート)
 - WebDialer (クリック方式のダイヤル機能)
- システム機能の強化
 - AVVID XML Layer (AXL) Simple Object Access Protocol (SOAP) API の強化 (パフォーマンス情報も付属)
 - Cisco Telephony Service Provider (TSP) の強化 (4.0 の新機能をサポート)
 - 設定可能なコール転送 (コール転送の設定情報を表示)
 - H.323 の強化
 - ハント グループ (Cisco CallManager での固有機能、拡張性の向上)



- Java Telephony Application Program Interface (JTAPI) — 新機能および自動アップグレードのサポート
- Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) — 優先順位レベルおよび優先コールを設定する機能
- Q.SIG (ISO 版、名前抑制、MWI、コール転送、転送)
- セキュリティ認証、Certificate Trust List、Cisco CallManager および電話間の Transport Layer Security (TLS)、シグナリングとデータ暗号化、署名付き電話の設定とファームウェア (電話および Cisco CallManager の証明書)
- Session Initiation Protocol (SIP) トランク (SIP ネットワークと接続するための SIP トランク)
- 新しい電話のサポート (Cisco IP Phone 7905、Cisco Wireless IP Phone 7920、Cisco IP Conference Station 7936、Cisco IP Phone 7970G)
- 管理機能の強化
 - Bulk Admin Tool (BAT) の強化
 - 新機能用の CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールのサポート
 - Dialed Number Analyzer (ダイヤルプラン障害のトラブルシューティング用ツール)
 - Cisco CallManager への MultiLevel Administration (MLA) の統合
 - 新機能用パフォーマンス モニタのサポート
 - Real Time Monitoring Tool (RTMT) の強化 (定義済みのモニタ ビュー、警告、およびレポート、操作性およびパフォーマンスの向上)
 - メディア リソースの向上 (指定のエラー発生時にプロンプトを表示するアナウンサー、RFC 2833 MTP のサポート)
 - 拡張 SNMP Management Information Base (MIB)
 - トレース収集ツール
 - トレース設定ツール

機能

アナウンサー

Q. アナウンサーとは何ですか？

A. アナウンサーとは、無効な番号のダイヤル時、プロンプトを表示したり、警告音を発するメディア デバイスで、クラスター間トランク コールおよび MLPP に対してアラートを出します。現在実装されているのは、これらの機能のみです。

Q. ほかの目的のためにメッセージをアナウンサーで表示するように設定できますか？

A. 現在のところ、こうした設定はできません。新しい通知を表示するために新しいトリガを追加または定義する設定機能はありません。

Q. アナウンサーで表示する新しいプロンプトを記録できますか？

A. できます。Cisco CallManager 4.0 の文書に方法が記載されています。

Attendant Console

Q. Attendant Console のどのバージョンが Cisco CallManager 4.0 でサポートされていますか？

A. Attendant Console 1.3 (1) がサポートされています。



Q. Attendant Console 1.3(1) でキューイングはサポートされていますか？

A. サポートされています。Attendant Console 1.3(1) では基本的なコール キューイング機能が利用できます。ただし、キューイングされているコールは表示されません。コールがパイロット ポイントに着信したときにハントグループのすべてのメンバーが通話中の場合、キューが満杯でなければ、応答が行われキューに追加されます。このコールは、キューに追加されている間は保留にされ、デバイス プールに応じて、発信者に対して Music on Hold (MOH) が再生されます。キューが満杯の場合、コールは [AlwaysRoute] メンバーにリダイレクトされます。ハント グループ メンバーが通話可能になると、コールはこのメンバーにリダイレクトされます。

Q. 新しいハント リスト / ライン グループ機能ではキューイング機能はサポートされていますか？

A. サポートされていません。キューイング機能は、Attendant Console で使用できる Telephony Call Dispatcher (TCD) ベースのハント グループでのみサポートされています。

Q. Attendant Console 1.3(1) では共有ラインがサポートされていますか？

A. サポートされています。アテンダント フォンは、他のアテンダントまたはアテンダント以外の電話とラインを共有できます。共有ラインが使用されている場合、パイロット ポイントに着信したコールは、アテンダント フォンの共有ラインのインスタンスにはルーティングされません。電話の場合と違い、共有 Directory Numbers (DN) にコールがある場合、グラフィカル ユーザーインターフェイス (GUI) には 1 行のみ表示されます。共有ラインが使用中であることを示す新しいコール状態である [Remote In Use] が導入されました。

AVVID XML Layer (AXL)

Q. AVVID XML Layer (AXL) インターフェイスはどのように強化されましたか？

A. Cisco CallManager 4.0 の AXL SOAP API では、以前のバージョンではサポートされていなかったサービス情報にアクセスできます。現在、Cisco CallManager perfmon カウンタで利用可能なサービス情報にアクセスすることができます。AXL を使用して、リアルタイム情報デバイス ステータスおよび CTI 情報も利用できます。クラスターで稼働する CallManager のコア サービスを保護するためにメッセージの抑制も用意されています。

バージ

Q. Cisco CallManager 4.0 ではバージ (割り込み) はサポートされていますか？

A. サポートされています。

Q. バージの対象 (コールの割り込み対象者) が通話を切るとどうなりますか？

A. 割り込みをする側とされる側の間でポイントツーポイント コールが確立されます。

Q. 発信者とラインを共有していない場合、このコールに割り込むことはできますか？

A. できません。

Q. 割り込みでは、コンファレンスブリッジリソースを使用する必要がありますか？

A. 必要ありません。割り込みでは、電話に搭載されている組み込みバージという機能を使用します。

Bulk Admin Tool (BAT) — Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS)

Q. Cisco CallManager 4.0 は、どのバージョンの BAT をサポートしていますか？

A. Cisco CallManager 4.0 では BAT-TAPS 5.0(1) がサポートされています。

Q. BAT にはどのような新機能がありますか？

A. このバージョンの BAT には、インストレーションの向上、一括設定用ウィザード、柔軟な CSV フォーマットの使用 (データ入力ファイル)、レポート作成ユーティリティ、マスター電話テンプレート、デバイス サマリー レポート、インポート情報の依存性をチェックする検証機能、カスタム ファイルのサポートなどの機能があります。



Q. TAPS 機能だけを使用したい場合でも、BAT をインストールする必要がありますか？

A. 必要ありません。Cisco CallManager 4.0 の場合、TAPS だけをインストールすることができます。

Call Detail Records (CDR) /CDR Analysis and Reporting Tool (CAR)

Q. Cisco CallManager 4.0 の CDR で強化された機能はありますか？

A. Cisco CallManager 4.0 の CDR には、MLPP、悪意のあるコール、およびビデオに関する詳細情報が記録されます。origIpPort と destIpPort フィールドは使用されず、データは記録されません。OnBehalf Of、Q.SIG 理由コードなど、いくつかのフィールドに変更が行われました。MLPP およびコンファレンスドロップ機能に新しい理由コードが導入されました。

Q. CDR は、コールに残った会議参加者が 2 人だけになったときにコンファレンスブリッジリソースをクリアする Cisco CallManager の機能をどのように処理するのですか？

A. Cisco CallManager 4.0 では、会議に残った最後の参加者 2 人に対して別の CDR を作成します。会議に残った参加者が 2 人だけになると、両方の参加者が直接接続されます。これによりコンファレンスリソースが解放されますが、直接接続されたコールは、会議に対して別の CDR を作成します。

Q. ビデオコールは、Cisco CallManager CDR レコードに反映されますか？

A. 反映されます。ビデオコールと音声コールの両方が同じ CDR にまとめられます。これにより、サードパーティ製の課金パッケージ等を使用する場合、ビデオおよび音声コールの情報を 1 つの場所で得ることができます。

Q. CAR は、Cisco CallManager 4.0 でビデオコールをサポートしていますか？

A. 現在のところ CAR ではビデオをサポートしていません。

会議、結合、直接転送

Q. 1 度アドホック会議が確立された後、2 人の参加者だけが残った場合どうなりますか？

A. その場合、コンファレンスリソースは解放され、この 2 人の間にコールが確立されます。

Q. コンファレンスブリッジのチェーン（複数の参加者によってコンファレンスブリッジに追加の参加者が加入する機能）は、Cisco CallManager 4.0 でサポートされていますか？

A. サポートされていません。参加者を追加できるのは会議の主催者だけです。

Q. 1 つの会議コールに同時に参加できる最大人数はどれくらいですか？

A. これは [Maximum Ad Hoc Conference] パラメータで設定可能です。このパラメータに、1 つのアドホック会議に参加できる参加者の最大数を指定します。このパラメータの値は、コンファレンスブリッジの機能がソフトウェアベースかハードウェアベースかによって異なります。標準的なコンファレンスブリッジの場合の最大参加者数は、ソフトウェアベースの場合は 64、Cisco Catalyst® WS-X6608 の場合は 16、Cisco Catalyst 4000 の場合は 16、NM-HDV の場合は 6 です。この値が会議への参加可能な最大人数以上に設定されている場合、設定数より多いポートを特定のコンファレンスブリッジに追加しようとする、入力は失敗します。

- デフォルト : 4
- 最小 : 3
- 最大 : 64



警告：CTI アプリケーションと Drop Any Party（参加者の削除）機能（ConfList ソフトキーから利用可能）は、16 より多い会議参加者数をサポートしていません。アドホック会議は 16 を超える会議参加者をサポートできますが、CTI アプリケーションおよび Drop Any Party 機能で使用される会議参加者リストには、直近の参加者 16 人のみが表示されます。

Dialed Number Analyzer (DNA)

Q. DNA とは何ですか？

A. DNA とは、Cisco CallManager ダイアルプランの着信および発信コールを分析するツールです。コールを分析し、ダイヤルした数字に適用されるコールパターン、発信者/受信者変換など、コールの詳細情報を表示します。DNA では以下のことが実行できます。

- 導入されたシステムのダイヤルプランの診断
- 事前に導入されたダイヤルプランの調整
- ダイアルした特定の数字に対応したパスのトレースおよび既存の問題の特定

DNA は、以下のさまざまなコールをサポートしています。

- IP Phone 間のコール
- ゲートウェイから IP Phone へのコール
- IP Phone からゲートウェイへのコール
- ゲートウェイ間のコール
- 機能固有パターンへのコール

Q. DNA はいつから利用できますか？

A. Cisco CallManager 4.0 の場合、シスコシステムズ® の Web サイト <http://www.cisco.com> で Cisco CallManager 4.0 とともにリリースされます。3.3(4) の場合、インストール時のプラグインとして Cisco CallManager 3.3(4) とともにリリースされます。

Extension Mobility

Q. Cisco CallManager 4.0 の Extension Mobility は変更されましたか？

A. Extension Mobility のコア機能に変更はなく、機能的にエンド ユーザから見た場合は、Cisco CallManager 3.3 と同じです。ただし、Cisco CallManager 4.0 の Extension Mobility アーキテクチャは、Tomcat Web サーバを使用するように変更され、新しいサービス URL が定義されました。さらに、サービス名が新たに「Cisco Extension Mobility」に変更されました。CallManager サービスは、サービス ページから制御できます。

転送機能の強化

Q. 自分にコールをリダイレクトした人を着信時に表示することはできますか？

A. できます。Cisco CallManager 4.0 ではシステム管理者は、コールを転送する際に表示される情報を設定することができます。表示される情報には、Original Dialed Number (ODN) (有効)、Redirected Dialed Number (RDN) (無効)、Calling Line ID (CLID) (有効)、Calling Name ID (CNID) (無効) があります。この各パラメータは、ラインごとに設定できます。



ハント グループ

Q. Cisco CallManager 4.0 のハント グループ機能で強化された点はありますか？

A. Cisco CallManager 3.3 以前では、ハント グループ機能は TCD サービスで提供されていました。Cisco CallManager 4.0 では、この機能はハント リストおよびライン グループとともに CallManager の基本機能としてサポートされています。ハント リストには、ライン グループまたはルート グループを追加することができます。

Q. Cisco CallManager 4.0 のハント リストおよびライン グループ機能は、以前のバージョンの Cisco CallManager のルート リストおよびルート グループ機能とどのように違いますか？

A. 概念は同じです。ルート グループにはゲートウェイ リストが含まれています。ルート リストにはルート グループ リストが含まれています。Cisco CallManager の管理者は、ルート リストとルート グループの組み合わせによって、発信コールを非常に柔軟に設定することができます。ハント リストとライン グループにも同様の柔軟性があります。システム管理者は、ライン グループを作成し、ハント グループに追加することによって、さまざまなグループを作成できます。

Q. ライン グループとは何ですか？

A. ライン グループとはディレクトリ番号の集合です。ライン グループは、ブロードキャスト（全メンバーを呼び出す）、トップダウン、循環、および最長アイドルハンティングをサポートしています。次のポイントへ移るまでの待機時間を求めるために、呼び出し無応答タイマーをライン グループに適用することができます。

Q. システム管理者は、使用するハンティング アルゴリズムをどのように求めるのですか？

A. ハンティングまたは分散アルゴリズムは、ライン グループごとにシステム管理者が設定します。

Q. システム管理者は、ブロードキャスト ハンティングの機能を持つライン グループと、循環ハンティングの機能を持つライン グループを同じハント リストに追加できますか？

A. できます。システム管理者は、さまざまな分散アルゴリズムをハント リストの各ライン グループに割り当てることによって、各種のハント グループを柔軟に作成することができます。

即時転送

Q. アクティブ コールの場合、このコールをボイス メール システムに転送できますか？

A. できます。即時転送機能は、着信、アクティブ、または保留中のコールに使用できます。

Q. ボイス メール以外の番号にコールを転送するために即時転送を使用できますか？

A. できません。この機能は Cisco CallManager 4.0 ではサポートされていません。

IP Manager Assistant (IPMA)

Q. Cisco CallManager 4.0 では、IPMA は共有ラインをサポートしていますか？

A. サポートしています。これは 4.0 の新しい IPMA 機能です。

Q. IPMA は、以前のバージョンの Cisco CallManager のプロキシラインサポート モデルに対応していますか？

A. 対応しています。IPMA は引き続き従来のプロキシライン モデルをサポートしています。新しい共有ライン モデルに移行する必要はありません。

Q. IPMA で共有ラインを使用する場合、IPMA マネージャではどのような機能がサポートされていますか？

A. 共有ライン用の IPMA マネージャ機能は、即時転送または転送、着信拒否、インターコム、短縮ダイヤル、バージ、直接転送、結合をサポートしています。



Q. IPMA で共有ラインを使用する場合、IPMA アシスタントではどのような機能がサポートされていますか？

A. IPMA アシスタントで使用できる機能は、マネージャの呼処理、マネージャのステータスおよびコールの表示、よく使用する番号の短縮ダイヤル作成、企業 /Cisco CallManager ディレクトリの検索、各ラインの呼処理、即時転送または転送、インターコム、ページ、プライバシー、1 ラインあたりの複数コール、直接転送、結合、コンソールからの DTMF デジットの送信、およびマネージャ フォンの MWI ステータスです。

Java Telephony API (JTAPI)

Q. Cisco CallManager 4.0 でサポートされている JTAPI のバージョンは何ですか？

A. Cisco CallManager 4.0 では JTAPI 2.0 がサポートされています。

Q. JTAPI 2.0 は 1 ラインあたりの複数コールをサポートしていますか？

A. サポートしています。コール数はラインごとにプロビジョニング可能です。

Q. JTAPI 2.0 は共有ラインをサポートしていますか？

A. JTAPI を使用することにより、1) ある共有 DN でコールを保留し、このコールを別の DN から保留解除し、2) 2 つの共有ラインの間でコールを行い、3) ある共有ライン ターミナルでアクティブ コールを維持したまま、別の共有ライン ターミナルから別のコールを開始し、4) 異なるデバイス同士にある同じ DN でアクティブ コールを同時に使用することができます。

Q. JTAPI 2.0 は直接転送および結合をサポートしていますか？

A. サポートしています。

悪意のあるコール (Malicious Call)

Q. Malicious Call ソフトキーを押すとどうなりますか？

A. 悪意のあるコールがプロビジョニングされた場合、SNMP または RTMT 警告によってただちに Cisco CallManager のシステム管理者に通知されます。さらに、Cisco CallManager クラスタ CDR のフラグが設定され、このコールの悪意性がオフネットワーク (PSTN) システムに通知されます。これにより、オフネットワーク システムでは取締当局への通知などの対策をとることができます。

Q. 悪意のあるコールのトレースを PSTN と連動させるためにどのような標準規格が使用されていますか？

A. Q.932 (Digital Subscriber Signaling System No. 1 [DSS 1] : ISDN 補完サービスの一般手順)、Q.951.7 (DDS 1 を使用した番号確認補完サービスの Stage 3 記述)、および EN 300 130-1 (ISDN Malicious Call Identification [MCID] 補完サービス) が使用されています。

Multilevel Administration Access (MLA)

Q. MLA は、Cisco CallManager 4.0 とは別にインストールする必要がありますか？

A. MLA は現在 Cisco CallManager に統合されています。

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

Q. Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) とは何ですか？

A. MLPP は、CallManager のシステム管理者がユーザに最大優先順位レベルを割り当てることができるようにします。コールの許可の優先順位が高いユーザは、優先順位が低いユーザのコールよりも優先的にコールを発信することができます。MLPP 機能は、IP Phone 間コールのユーザにコールが優先扱いされていることを知らせる音を発します。また、優先順位が高いユーザは、ゲートウェイの外部宛てのコールも優先順位が低いコールより優先されます。この機能には Alternate Party Diversion 機能もあり、これによって CallManager の管理者は、優先処理ができない場合または優先された当事者が優先コールに回答しない場合、別の電話へコールを転送することができます。



Q. IP Phone 間コールが優先されていることを、ユーザはどのように知ることができますか？

A. 優先コールの対象者には、コールが優先されていることを通知する音が発信されます。ユーザが既存のコールを切ろうとすると、優先音が鳴らされ、この優先コールが延長されます。

1 ラインあたりの複数コール

Q. 1 ラインに複数のコールがある場合、なぜディスプレイが変わるのですか？

A. 1 つのラインで最大 200 のコールを使用できるようにするために、新しいユーザ インターフェイスが開発されました。新しいインターフェイスでは、ラインにあるコールを表示したり、起動する機能（保留、再開、会議、転送、結合、直接転送など）を選択することができます。

Q. どのモデルの電話が 1 ラインあたりの複数コールをサポートしていますか？

A. Cisco IP Phone 7940、7960、および 7970 で、1 ラインあたり最大 200 のコールがサポートされます。Cisco CallManager 4.0 のリリース時では、他の電話は 1 ラインあたり最大 2 つのコールをサポートしています。さらに多くの複数コール数に対応するために、Cisco IP Phone 7905 および 7912 用のファームウェアが、2004 年後半にリリースされる予定です。

Q. 共有ラインではどの点が強化されましたか？

A. 1 つのライン上の多くのコールを簡単に操作できるようにするために、強化したユーザ モデルが実装されました。Cisco IP Phone 7940、7960、および 7970 では、電話に付いているロッカー キーとソフトキーを使用し、ライン上のコールを簡単にスクロールして、コールを選択することができます。この選択したコールから、保留、再開、転送、会議などのいずれかを選ぶことが可能です。Cisco IP Phone 7970G の場合、タッチスクリーンを利用してコール インスタンスに触れて操作を実行します。

Q. 1 つのラインで使用できるコール数を制限できますか？

A. システム管理者は、ラインの [Maximum Number of Calls] パラメータを設定することにより、コール数を制限することができます。

オペレーティング システム

Q. Cisco CallManager 4.0 には、どのバージョンのオペレーティング システムが必要ですか？

A. Windows OS バージョン 2000.2.5 SR2 が必要です。

プライバシーの拡張

Q. Cisco CallManager 4.0 には新しいプライバシー機能はありますか？

A. あります。システム管理者は、Cisco IP Phone 7940、7960、または 7970 でプライバシー ボタンをライン ボタンに割り当てることができます。プライバシー ボタンは、押すたびにオンとオフが切り替わります。プライバシーを有効にした場合、新しいコールをピックアップするとプライバシーが自動的に起動します。コールが確立されてからプライバシーを起動することもできます。プライバシー ボタンが無効（デフォルト）の場合、ラインを共有する他のユーザは共有ライン上の発信者の名前と番号情報を参照できます。他のユーザが割り込むこともできます。プライバシーが起動していると、コールのインスタンスは共有ラインの他のインスタンスには表示されません。この場合ユーザはコールに割り込むことはできません。



Q.SIG

Q. Cisco CallManager 4.0 ではどの Q.SIG がサポートされていますか？

A. CallManager 4.0 は ISO 版の Q.SIG に適合し、名前抑制 (CNIR、CONR)、MWI、転送スイッチによるコール転送、および結合による転送機能をサポートしています。Q.SIG 機能の強化により、Cisco CallManager は他の Q.SIG PBX システムに接続し、システム間で透過的に機能を提供します。

Q. どのような Q.SIG インターオペラビリティ テストが実行されるのですか？

A. Avaya Definity、Nortel Meridian、Alcatel 4400、Siemens HiPath (Hicom)、Ericsson MD110、IPC IPMX trading turret key system、BT Syntegra trading turret system とのインターオペラビリティ テストが実行されます。

Q. Cisco CallManager は、Message Waiting Indicator (MWI) Application Protocol Data Unit (APDU) の送受信をしますか？

A. します。これにより、Cisco CallManager クラスタは MWI APDU をリモート PBX から受信すると、クラスタにある電話の MWI ライトを点灯させます。また、Cisco CallManager に接続されているボイス メールボックスにメッセージが残されていると、Cisco CallManager は MWI APDU をリモート PBX に送信します。ただし、電話はリモート PBX 上にあります。

Q. Cisco CallManager は、どのような方法で Q.SIG のコール転送を行うのですか？

A. Cisco CallManager は、転送スイッチによるコール転送を行います。

Q. どのような転送がサポートされていますか？

A. Cisco CallManager は、SS-CFU (無条件コール転送 / すべてコール転送)、SS-CFB (通話中コール転送)、SS-CFNR (応答なしコール転送 / 応答なしコール転送) をサポートしています。

セキュリティ

Q. Cisco CallManager 4.0 の新機能は自動的に有効になるのですか？

A. なりません。Cisco CallManager は以下の 2 つのモードで動作します。

1. 非セキュア モード：インストール時のデフォルト モードです。
2. セキュア モード：セキュリティ機能が有効です。

セキュア モードを有効にするには、USB eToken および新しい Certificate Trust List (CTL) クライアントユーティリティを使用します。この eToken には、シスコの X.509v3 証明書が組み込まれており、電話用の CTL ファイルを作成したり、クラスタのセキュリティ モードを設定する場合に使用します。

Q. CTL ファイルとは何ですか？

A. CTL ファイルとは電話に対して送信されるファイルで、このファイルには、ネットワーク上で信頼出来る電話のデバイスおよび資格証明のリストが入っています。CTL ファイルには、ID、公開鍵、およびロールの情報が格納されており、管理者ワークステーションの CTL クライアントで作成されます。USB eToken によって署名が付けられ、TFTP 処理時に電話にロードされます。

Q. CallManager のセキュリティ機能を有効にするには、eToken が必要ですか？

A. 必要です。

Q. eTokens は CallManager 4.0 に付属していますか？

A. 付属していません。シスコの X.509v3 証明書が組み込まれている USB eToken を別途購入します。USB eToken の部品番号は KEY-CCM-ADMIN-K9= です。



サービス URL

Q. サービス URL とは何ですか？

A. Cisco CallManager 4.0 では、ライン ボタンまたは短縮ダイヤル ボタンは、[MyFastDials]、[Weathers]、[Stock Quote] など、指定した Extensible Markup Language (XML) サービスのショートカットとして使用できます。

Q. サービス URL はどのように設定するのですか？

A. システム管理者が電話ボタン テンプレートを作成し、ボタンをサービス URL ボタンとして割り当てることができます。

Q. 電話ボタン テンプレートを作成すると、サービス URL にサービスを割り当てることができますか？

A. CallManager のユーザまたはシステム管理者は、URL をボタンに割り当てると、ボタンを 1 回押すだけでサービスを起動できます。

サービス性の強化

Real Time Monitoring Tool (RTMT)

Q. Real Time Monitoring Tool (RTMT) とは何ですか？

A. RTMT とは、システム管理者が Cisco CallManager の重要な情報、OS リソース、および重要なサービスをモニタできるようにするサービス ツールです。RTMT は、Cisco CallManager クラスタで問題が発生したときに、重要な警告または情報の通知を発するアラート システムを搭載しています。サービス ツールには、重要なクラスタ情報に関する履歴レポートを自動的に作成するレポート作成機能があります。

Q. RTMT はどの点が強化されましたか？

A. Cisco CallManager では、RTMT が、以前のバージョンの Cisco CallManager にはなかったクライアント / サーバ機能を提供するために強化されました。これにより、RTMT パフォーマンスおよび使いやすさが向上しました。RTMT のバージョン 4.0 では、標準的なパッケージ済み警告、モニタ、およびレポートが提供されます。パッケージ済みモニタを使用すると、システム管理者は、RTMT をほとんど設定せずに Cisco CallManager クラスタ全体の総合ビューを表示できます。パッケージ済み警告を使用すると、システム管理者には電子メールまたは電子メール ページャで、標準的な Cisco CallManager、サーバ、またはサービスの問題に関する警告が通知されます。パッケージ済みレポートを使用すると、詳細な状況把握および発生した問題のトラブルシューティングができます。

Q. RTMT クライアントは、どのようにリモート PC にインストールされるのですか？

A. RTMT は、Cisco CallManager プラグイン ページからリモート PC にインストールされます。

トレースの収集と設定用ツール

Q. 新しいトラブルシューティング用トレース設定機能の目的は何ですか？

A. システム管理者がクラスタのすべてのノードに対して特定のトレース レベルを簡単に設定するために使用します。

Q. デフォルトのトレース設定とトラブルシューティング用トレース設定に違いはありますか？

A. あります。トラブルシューティング用トレース設定は、トラブルシューティングする各開発チームの目的に合わせて Cisco CallManager サービスごとに事前に設定されています。トラブルシューティング用トレースを設定すると、トレース設定ページの大半のトレース設定パラメータが無効になります。



SNMP およびパフォーマンス モニタ

Q. Cisco CallManager 4.0 の SNMP は変更されましたか？

A. 変更されました。Cisco CallManager 4.0 SNMP には新しい MIB オブジェクトである `ccmSystemVersion` および `ccmInstallationId` が追加されました。SIP トランク情報を提供する新しいテーブルも提供されています。また、新しい製品タイプを迅速に実装するために、新しい製品タイプを動的に取り込む機能が追加されました。さらに、システム管理者に悪意のあるコールに対するレポートまたは品質レポートを通知するために、新しい2つのトラップおよび SIP、H.323 情報が追加されました。Cisco IP Phone 7970G 向けのサポートも追加されました。Cisco CallManager でサポートされているメディア デバイスの進歩に合わせるために、メディア デバイス タイプも追加されました。

Q. Cisco CallManager SNMP MIB は公開されていますか？

A. 公開されています。詳細については、[ftp://ftp.cisco.com/pub/mibs/supportlists/callmanager/callmanager-supportlist.html](http://ftp.cisco.com/pub/mibs/supportlists/callmanager/callmanager-supportlist.html) を参照してください。

Q. 悪意のあるコールのトレース用 SNMP トラップはありますか？

A. Cisco CallManager SNMP MIB には、Severity、CalledPartyName、CalledPartyNumber、CalledDeviceName、CallingPartyName、CallingPartyNumber、CallingDeviceName、および Time を提供するトラップがあります。

Q. パフォーマンス モニタ カウンタは強化されましたか？

A. Cisco CallManager 4.0 の `perfmom` のサポートによって、新機能をサポートするためのカウンタが複数追加されました。`perfmom` により、アプリケーション制御ブリッジ デバイス、アナウンサー、セキュリティ、ビデオ、ハントリスト、SIP、トランスコーダ、MTP、ソフトウェア コンファレンスブリッジ、およびハードウェア コンファレンスブリッジ用の各カウンタが追加されました。システム パフォーマンス カウンタの一部について、名前が変更されました。

Session Initiation Protocol (SIP) トランク

Q. Cisco CallManager 4.0 の SIP トランクの目的は何ですか？

A. SIP トランクの目的は、Cisco CallManager を分散 SIP ネットワークに接続することです。

Q. どのような SIP 標準がサポートされていますか？

A. SIP 標準 RFC 2543 bis4 がサポートされ、RFC 3261 については一部がサポートされています。SIP トランクは RFC 2833 DTMF を使用します。

Q. RFC 3261 の一部がサポートされているということですが、サポートされていないのはどの部分ですか？

A. Cisco CallManager 4.0 では、RFC 3261 の以下の部分がサポートされていません。

- 参照
- サブスクライブ / 通知
- アウトバンド DTMF
- 認証
- MWI

Q. なぜ SIP トランクに MTP が必要なのですか？

A. SIP トランクを通るコールに必要な Cisco MTP は、2833 DTMF リレー機能を提供します。インバンド 2833 DTMF は、CallManager で使用する SCCP、MGCP、および H.323 アウトオブバンド DTMF と相互動作が必要なためです。



Q. SIP トランクと Cisco CallManager とのインターオペラビリティについては、どのようなデバイスがサポートされていますか？

A. Cisco SIP Proxy Server (CSPS)、Cisco BTS 10200、Cisco PGW 2200、26xx、36xx、37xx、53xx、54xx、58xx、Microsoft Messenger、および別の Cisco CallManager クラスタとのクラスタ間通信がサポートされています。

Telephony Service Provider (TSP) の強化

Q. Cisco CallManager 4.0 でサポートされている TAPI のバージョンはどれですか？

A. Cisco CallManager 4.0 では、TSP は TAPI バージョン 2.1 をサポートしています。

Q. 新しい機能はサポートされていますか？

A. 以下の機能がサポートされています。

- ポートの動的登録
- RP でのメディアターミネーション
- VM への転送
- バージ/プライバシンのリリース
- 自動インストール
- 1 ラインあたりの複数のコール
- 共有ライン
- 直接転送
- コールの結合
- ブラインド転送の拡張
- QoS の拡張
- 表示フラグ

Tomcat Web Server

Q. どのサービスで Tomcat Web サーバは使用されるのですか？

A. Cisco CallManager 4.0 では、Tomcat 4.1.12 がインストールされ、Cisco IPMA、Cisco WebDialer、Cisco Extension Mobility、Cisco CDR Analysis and Reporting などの Web サーバとして使用されます。

Q. なぜ Tomcat Web サーバが Cisco CallManager 4.0 に付属しているのですか？

A. Tomcat を導入したのは、パフォーマンスを向上させ、システム管理者が Tomcat Web Application Manager アプリケーションを使用して Web サービスを管理できるようにするためです。Tomcat Web Application Manager は、現在導入されている Web アプリケーションの表示、既存アプリケーションの強制リロードまたは開始/停止を可能にする新しい Web アプリケーションの導入をサポートしています。

ビデオ

Q. Cisco CallManager 4.0 では、SCCP デバイスでのビデオサポートはありますか？

A. あります。ビデオをサポートするために、Cisco CallManager 4.0 の SCCP スタックが強化されました。

Q. 従来の H.323 ビデオシステムは Cisco CallManager で使用できますか？

A. 使用できます。Cisco CallManager 4.0 は H.323 ビデオシステムをサポートしています。



Q. シスコは、H.323 ビデオ システムでインターオペラビリティ テストは実施したのですか？

A. Cisco CallManager 4.0 のリリース時点では実施していません。

Q. Cisco CallManager 4.0 では、どのビデオ エンドポイントがサポートされていますか？

A. ビデオ対応エンドポイントは、Cisco CallManager のリリースと関係ありません。Cisco CallManager 4.0 のリリース時点では、Cisco CallManager は Tandberg と H.323 エコシステム パートナーが開発したサードパーティ製 SCCP ビデオ エンドポイントをサポートしています。Cisco CallManager 4.0 のリリースのすぐ後に、ビデオの関連づけがサポートされます。

WebDialer

Q. WebDialer とは何ですか？

A. Cisco WebDialer とは、Web ベースおよびデスクトップ ベースのアプリケーションからクリックでダイヤルできるようにする機能を付加するアドオン アプリケーションです。

Q. どのプラットフォームでサポートされていますか？

A. IE5.5 以降、Netscape 4.7x 以降、Opera 7.0 以降、Mozilla1.3 以降を搭載した Windows プラットフォームでサポートされています。

Q. クリック方式によるダイヤル機能を企業 HTTP ディレクトリに追加できますか？

A. できます。WebDialer の文書に、クリック方式によるダイヤル機能を企業ディレクトリに追加するために、JavaScript を使用して既存の HTML を変更する方法が記載されています。

パッケージング

Q. Cisco CallManager 4.0 のパッケージングはどのようになっていますか？

A. Cisco CallManager 4.0 へのアップグレード ソフトウェアが、CD-ROM バンドルとして購入できます。

Q. ソフトウェア アプリケーション サポート プラス アップグレード (SASU) を所有している場合のアップグレード 価格はどれくらいですか？

A. SASU をお持ちのお客様の場合、アップグレードは無料です。Product Upgrade Tool (PUT) を使用して、Cisco CallManager 4.0 移行ソフトウェアを無料で注文することができます。PUT は、<http://www.cisco.com/upgrade> にあります。

Q. Cisco CallManager 4.0 のリリースにより MCS サーバの価格は変更されますか？

A. されません。Cisco CallManager 4.0 が付属した新しい MCS サーバの購入価格は、以前のバージョンの Cisco CallManager の場合と同じです。

Q. Cisco CallManager 4.0 を利用できるサーバ モデルはどれですか？

A. 以下のサーバが利用できます。詳細については、個々のサーバ モデルを参照してください。

サーバ モデル

部品番号

MCS 7815I-2000

- MCS-7815I-2.0-EVV1 (サーバのみ)
- MCS-REDUNDANT-2 (Cisco CallManager ライセンスが付属した 2 つのサーバ)
- MCS-STARTERKIT-9 (7815I-2000 Cisco CallManager 4.0、ユーザ ライセンス × 5、電源キューブとコード付き Cisco IP Phone 7960G)



サーバモデル	部品番号
MCS 7825H-3000	<ul style="list-style-type: none">• CM4.0-K9-7825= (1,000 ユーザ)• MCS-STARTERKIT-10 (7825H-3000、Cisco CallManager 4.0、ユーザ ライセンス × 5、電源キューブとコード付き Cisco IP Phone 7960G)• MCS-7825H-3.0-IPC1 (サーバのみ)
MCS 7835H-3000	<ul style="list-style-type: none">• CM4.0-K9-7835= (2,500 ユーザ)• MCS-7835H-3.0-IPC1 (サーバのみ)• MCS-7835I-3.0-IPC1 (サーバのみ)
MCS 7845H-3000	<ul style="list-style-type: none">• CM4.0-K9-7845= (5,000 ユーザ)• LIC-CCM4.X-2500 (2,500 ユーザ アップグレード ライセンス)• MCS-7845H-3.0-IPC1 (サーバのみ)
サードパーティ製 ハードウェア	<ul style="list-style-type: none">• CM4.0-K9-DL320= (HPDL320-G2 用の 1,000 ユーザ Cisco CallManager ライセンス)• CM4.0-K9-DL380= (HP DL380-G3 用の 2,500 ユーザ Cisco CallManager ライセンス)• CM4.0-K9-DL380D= (HP DL380-G3 用の 5,000 ユーザ Cisco CallManager ライセンス)• CM4.0-K9-X345= (IBM x345 用の 2,500 ユーザ Cisco CallManager ライセンス)

CISCO SYSTEMS



Corporate Headquarters

Cisco Systems, Inc.
170 West Tasman Drive
San Jose, CA 95134-1706
USA
www.cisco.com
Tel: 408 526-4000
800 553-NETS (6387)
Fax: 408 526-4100

European Headquarters

Cisco Systems International BV
Haarlerbergpark
Haarlerbergweg 13-19
1101 CH Amsterdam
The Netherlands
www-europe.cisco.com
Tel: 31 0 20 357 1000
Fax: 31 0 20 357 1100

Americas Headquarters

Cisco Systems, Inc.
170 West Tasman Drive
San Jose, CA 95134-1706
USA
www.cisco.com
Tel: 408 526-7660
Fax: 408 527-0883

Asia Pacific Headquarters

Cisco Systems, Inc.
Capital Tower
168 Robinson Road
#22-01 to #29-01
Singapore 068912
www.cisco.com
Tel: +65 6317 7777
Fax: +65 6317 7799

Cisco Systems has more than 200 offices in the following countries and regions. Addresses, phone numbers, and fax numbers are listed on the Cisco Web site at www.cisco.com/go/offices

Argentina • Australia • Austria • Belgium • Brazil • Bulgaria • Canada • Chile • China PRC • Colombia • Costa Rica • Croatia
Czech Republic • Denmark • Dubai, UAE • Finland • France • Germany • Greece • Hong Kong SAR • Hungary • India • Indonesia • Ireland
Israel • Italy • Japan • Korea • Luxembourg • Malaysia • Mexico • The Netherlands • New Zealand • Norway • Peru • Philippines • Poland
Portugal • Puerto Rico • Romania • Russia • Saudi Arabia • Scotland • Singapore • Slovakia • Slovenia • South Africa • Spain • Sweden
Switzerland • Taiwan • Thailand • Turkey • Ukraine • United Kingdom • United States • Venezuela • Vietnam • Zimbabwe

All contents are Copyright © 1992–2004 Cisco Systems, Inc. All rights reserved. CCIP, CCSP, the Cisco Arrow logo, the Cisco *Powered* Network mark, Cisco Unity, Follow Me Browsing, FormShare, and StackWise are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, and iQuick Study are service marks of Cisco Systems, Inc.; and Aironet, ASIST, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCNA, CCNP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, the Cisco IOS logo, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Empowering the Internet Generation, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherSwitch, Fast Step, GigaStack, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, MGX, MICA, the Networkers logo, Networking Academy, Network Registrar, *Packet*, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, RateMUX, Registrar, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StrataView Plus, Stratum, SwitchProbe, TeleRouter, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, and VCO are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Web site are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0304R) ETMG 203246—CM 02.04